

# Our Life 129 号

- \*内容\***
- 2020 年度本会活動は“ご近所福祉”の再構築で地域づくり 25年目の節目にトライ ……P.1
  - 2018—2019 年度 2年間の取組み「子どもを育む地域づくり」検証報告から …… P.3
  - 「焼津福祉文化共創研究会」結成 1年目の成果 「集まる居場所検証」から見えたものは …… P.4
  - 第2回公開型研修会のご案内／事務局日誌拝見 ……P.4

## 2020年度、本会活動は「“ご近所福祉”の再構築で地域づくり」 第1回公開型研修会は中止 25年目の節目にトライ!

いよいよ、本会は、25年目の節目に入る活動となる。「静岡発 福祉文化の創造」を発信し、この24年間の福祉文化実践活動をさらに継続しようとスタートに立った。4月19日は、会員全体会を含めた「公開型研修会」として、2月初旬から準備し、3月中旬までに会員他70名程の県民に研修会の案内状を発送した。

4月17日、県総合社会福祉会館管理室より、18日以降の会館の使用は難しいとの連絡を受けた。予め、参加申し込みをさせていただいた方々には、諸般の事情により、研修会を中止し、後日、第1回研修会の関連資料を送付する旨を伝えた。研修会の開催が出来ないのは残念ではあるが、一日も早く、正常な生活になることを願うばかりである。今年度は、本会役員改選の時期でもある。また、今こそ福祉文化の時代を構築しなければならないが、本会のような「志縁組織」は、少しずつ会員減少傾向にある。これまで、「地縁組織」が地域を創ることが当たり前となっていたが、こうした認識がだんだん普遍化し、一人一人の意識は個人志向化傾向に来ていることも伺える。改めて、「福祉文化の創造」に向けた、諸活動に積極的に取り組む一年間としたい。4月19日に開催する予定であった「第1回 静岡福祉文化を考える会 公開型研修会」は、研修テーマをつなぐご近所の再構築として、「近助」とは何かを探ることとした。研修参加者のご近所を語り合いながら、望ましいこれからのご近所を参加者同士で描いていこうとした。

●着眼項目は、(1)「静岡発 福祉文化の創造」24年間のプロセス重視学習を検証する場 (2) 世代を超えて、身近な生活圏域の課題解決に向けた議論(「生活会議」)をする場 (3)「今、あらためて、ご近所福祉その意識と実態」を語る場 (4)「私のご近所を診断、私が創る、ご近所福祉これまでとこれから」を語る場 を掲げていた。



25年の節目を迎えた本会の3つの活動基調を、今一度、ここで共有していきたい。

\*第一「専門性と市民性の融合の関わり」 \*第二「公開型地域総合型学習の企画と実践」 \*第三「課題解決のに向けたプロセス重視」である。この「3つの活動基調」をもとに、24年間、一貫して福祉文化実践活動を常に「3つの柱立て」をもとに展開していることも、重ねて再確認をしていきたい。

\*第1の柱立て「啓発学習事業」⇨「静岡発(地方発)福祉文化の創造」をめざして、県内各地の実践活動に学び「課題提起」をして「地域総合型啓発学習」に取り組んできた。\*第2の柱立て「調査研究事業」⇨この24年間、一貫して、その時代の社会問題を検証する目的で、24種類の調査を県民の協力のもとに取り組み、その結果をその都度県民と共に地域総合型学習を通じて、課題解決に向けた議論を深め合ってきた。\*第3の柱立て「実践地区活動事業」⇨広く県内各地の実践事例を共有し合い「地域診断」をし、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開しながら、「協働」による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認してきた。

本会のこれまでのプロセス重視から、令和2年度の本会活動テーマを「つなご近所の再構築の決め手は一体何か -ご近所福祉の復活-」(近助とは何かを探る)を掲げる。そして、「地域環境」を再検証するとともに、地域住民一人ひとりが、住み慣れた生活圏域である「ご近所の再構築」に向けて英知を出し合う。

本会では、これまでに7年間（平成21～26年度）静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組み、その中でも、平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり、「ホッと私の近所福祉を創る」をテーマに、若者と共に「生活圏域におけるささえあいをご近所福祉」と捉え、研究協議と福祉文化実践活動に取り組んできた。あれから、5年を経過した今、改めて、いまこそ「ご近所福祉の復活」を呼び掛け、「近助」の確立を発信できる活動の時期と認識し積極的な展開をしていきたい。

## ■本会の2020年度の主な活動内容

### 1. 委員会の開催

- ・第2回 6月21日（日） 10:00 静岡市清水区「寄ってっ亭」内
- ・第3回 10月25日（日） 10:00 静岡市清水区「寄ってっ亭」内
- ・第4回 2月14日（日） 10:00 静岡市清水区「寄ってっ亭」内

### 2. 公開型研修会の開催

- \*第2回 6月21日（日） 13:30 静岡市清水区「寄ってっ亭」内  
研修テーマ『ご近所を診断』\* 住民主体でご近所を診断(福祉文化実践調査の取り組み)
- \*第3回 2月14日（日） 13:30 静岡市清水区「寄ってっ亭」内  
研修テーマ『これで安心 ホットするご近所』

### 3. 「第19回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- \*日 時 11月25日（日） 13:00～16:30
- \*会 場 静岡市清水区追分 「寄ってっ亭」
- \*テーマ 『ホットするご近所のささえあいは誰が創る?』
  - ①問題提起「誰がご近所福祉を創るか、気になるこの先・・・」
  - ②ミニシンポ「ご近所福祉に関わって」
    - \*市民、民生委員、老人クラブ、ボランティア、ワーカーからひと言
  - ③ワークショップ「ほっとする、こんなご近所福祉をめざして」
    - \*参加者が思い思いに主体となって、議論した末、出来ましたこれで安心“私のご近所”

### 4. 日本福祉文化学会中部東海ブロック活動への参加

\*「第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会」において、学会ブロック活動の基盤強化の目的で実現した「中部東海ブロック大会」。今年度第2回大会開催（9月5日名古屋市で開催予定）に向けて、ブロック内学会員との連携を保持し、本会の福祉文化実践活動の発表の機会をもつ努力をし、「2020年度・福祉文化元年」を維持確立できるように努める。そして、第31回学会大会沖縄大会で「静岡発 福祉文化の創造でご近所福祉を創る」を実践発表できる努力をする。

### 5. 調査研究活動 テーマ『ご近所福祉（近助）その意識と実態』調査の実施

24年間、その年度の地域課題を調査テーマに取り組んできた。今年度のキーワードは「ご近所福祉」。

- a 調査項目は、(1)基本属性 (2)生活状況 (3)家庭・家族のこと (4)ご近所に関する意識に関すること (5)ご近所に関する実態に関すること (6)ご近所への期待に関すること (7)ご近所との関わりに関すること (8)自由意見 の8項目とする。細部は「調査部会」で具体化する。
- b 調査の展開：(1)調査実施期間（8月～9月）、(2)入力期間（10月～11月）、(3)分析・考察（12月～1月）、(4)公表（3月）を予定
- c 対 象 静岡県内に居住する県民 10代以上300名
- d 回収目標 150名程度
- e 調査依頼／配布方法 会員、地域実践者・関係団体、企業



### 6. 広報・啓発活動

- (1)「機関紙発行計画」に基づき『OUR LIFE第129号～第132号』の発行
  - \*年5回 A4版 4ページ構成 色上質紙印刷 500部発行

### 7. 実践活動「若者発 ご近所福祉かるた」の積極的・有効的活用で「ご近所福祉」の検証

### 8. 現場視察研修

### 9. コミュニティ組織との連携

「ご近所」について、広く地域住民の意見を把握することに努める。

### 10. 関係・団体との協働・連携

- (1)静岡県社会福祉協議会及び市町社協、静岡県コミュニティづくり推進協議会との連携（情報提供）
- (2)焼津福祉文化共創研究会による、「小地域福祉活動」の取り組みの現場に学ぶ 等

## 20の提言は、これからの地域づくりの鍵

### 2018-2019年度2年間の取組み「子どもを育む地域づくり」検証報告から

本会が、2018年度・2019年度の2年間の活動テーマを「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」に、関係機関・団体、地域実践者等幅広い方々の支援をもとに取り組みできた活動を、静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業により「子どもを育む地域づくりその意識と実態検証報告書」としてこの度まとめた。章立ては、「第1章：子どもを育む地域づくりその意識と実態調査（大人対象）」「第2章：256名の子どもたちに聞きましたホッとする地域ですか（子ども対象）」「第3章：市民参加型/公開型研修会からの考察」「第4章：子どもを育む地域の小さな試みを検証」「第5章：共創社会実現研究会の検証」の5つの章立てによりまとめてきた。そして、第6章では、各章立ての考察の総括的に下記の20の項目を提言としてまとめたので紹介する。大人社会の意識改革と共に、地域づくりすべてに活かしていきたい提言でもある。



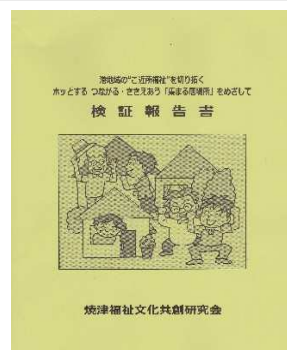
1. 大人（親）の姿を見て、子どもは育つ。世代を超えてふれあいが生まれ、子どもたちに自信が芽生えてくるプロセスを大人社会は大切にする。
2. 有資格者による公的制度から、住民と専門職との対等な関係の「総合的コーディネート機能」の開発。
3. 地域社会の仕組みを積極的に子どもに伝授し、常に相談(受容)出来る地域環境維持に努める。
4. 子どもたちは、地域参加を切望している。大人社会も、加齢化とともに、地域参加志向に前向きな市民は多い。地域で子どもを育む活動や地域課題の改善・解決に「見える化」して積極的に参加を呼びかける。地域の伝統行事等への参加を呼びかけ、住民の役割分担を明確化し、近隣住民の関係を維持する。
5. 足元福祉・身近な生活圏域を基に「地域を知る」から始まる「予防・創造的福祉」「将来的投資」の試み。
6. 今こそ、親が積極的に子どもとコミュニケーション力をもって関わり、社会とのつながりを家庭から発信し、「家事労働(手伝い)」の機会を提供し、子どもが積極的に「地域参加」出来る糸口を働きかける。
7. 子どもを育む原点は「家庭」にある、その楽しい家庭環境維持に努める。「父親」（30代から50代男性）の地域参加をより積極的に働きかける。
8. 教育と福祉、学校と地域、大人と子供、地縁と志縁をそれぞれ『融合』する日々の努力。
9. 個人志向傾向の今日、家族内のコミュニケーションを維持し、身近な地域社会の話題性に助け、家庭と地域社会(大人社会)をつなげる環境保持に努める。
10. 近所づきあいや、身近な地域の魅力を伝え、親子で地域行事・地域活動に参加し、日頃から「気づき」地域課題を改善する目的意識を積み上げていく。
11. 大人社会は、日々子どもたちと発達段階に応じた向き合い・信頼関係を深め、イベント・お祭り等で大人と接点を持ち地域社会がつながることに心掛ける。ほめる・叱る強弱なコミュニケーションに努める。
12. 季節感、地域の自然・地域性や、伝統歴史のある行事を通じて、地域住民との交流の場を提供する。
13. 子どもの集団性の育成に努め、子どもたちの意見・アイデアを反映する地域づくりを心掛ける。
14. 地域づくりは、「与えられる」ものではなく「創る・参画する」で制度を変えていく努力が求められる。地域づくりの仕組みを「見える化」「わかる化」して住民に啓発し、「地域の組織体制の確立に専門性との融合・協働」や地縁組織と志縁組織との「コミュニティ組織内団体間連携」に努める。
15. 地域住民が気軽に直接的または間接的に参加し、自然体で学び合う環境を創り、多くの大人社会を巻き込み、地域課題に地域住民同士が心通わせ、ささえあう地域づくりに心掛ける。
16. 「ご近所」「笑顔」「楽しい」「あいさつ」「笑顔」「優しさ」は、子どもを育む“近助”の啓発啓蒙を図る地域づくりの第一歩である。
17. 若い世代・世帯の積極的な地域参加で「地域の伝統文化」を継承する機会を期待する。
18. 高齢者・障がい者・子ども別の単発的な福祉情報から、当事者的視点で議論が出来る社会、相互理解を基本にした福祉情報の一体化、共有化で地域を変える努力をする。
19. 大人社会は、子ども社会に地域資源の有効活用を働きかける工夫。
20. 単に「保護的取り組み」では、真の問題解決にはつながらない。「地域を家庭化」し、「世代を超えて交流」「憩いや語らいが自由」「趣味などを通じて、また地域行事で交流する」「学習支援」等が出来る場所を、それぞれの地域性をもとに人々が改善する努力をする。

## 焼津福祉文化共創研究会結成1年目の成果

### 「集まる居場所検証報告書」をもとに、さらに“ご近所福祉”を検証

「焼津福祉文化共創研究会」(2019年度結成、焼津市港中学校区、2つの自治会・5,000世帯の管内で活動に取り組む。会員13名)では、「赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」及び「静岡県コミュニティづくり推進協議会活動集団助成事業」を受けて、管内で、長年にわたり、住民同士がふれあい交流し、「集まる居場所」として取り組まれている55の団体・グループの把握を把握し、回答項目を分析・考察し、このほど、「港地域の“ご近所福祉”を切り拓く、ホッとつながる・ささえあふ集まる居場所をめざして検証報告書」(A4版・84頁 200部)としてこのほど取りまとめた。

研究会では、引き続き、この活動を継続して取り組み、更に管内の団・グループの把握に努め、「地域ぐるみの居場所」を検証する。今回発行した冊子の主な章立ては、第1章 港地域の団体・グループ把握のプロセス 第2章 港地域の団体・グループを紹介 第3章 港地域の55の団体・グループ把握から見たもの(地域活動への提言) 第4章 資料編 となっている。



#### \*\*「第2回公開型研修会 - 私のご近所を私が診断し、ご近所福祉を拓く -」ご案内\*\*

- 期 日：令和2年6月21日(日) 13:30~16:30
- 会 場：NPO法人泉の会「寄ってっ亭」(〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17 TEL054-367-2878)
- 内 容：(1) アイスブレイク「若者発 近所福祉かるたで私を紹介」  
(2) 基調報告①「近所福祉と診断 - これまでの調査結果を探る -」  
(3) 円卓トーク「住民主体でご近所を診断する」

\* 参加申し込み・問い合わせ：〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田厚 TEL&FAX054-624-1924

#### 事務局日誌拝見(2/20~4/30)

02/20 第187回委員会開催 第16回静岡県福祉文化研究セミナー開催(参加者21名)

02/21 「子どもを育む地域づくり調査検証報告書」完全原稿で入稿 ⇨03/10 納品

03/11 県社協へ「県社協ふれあい基金助成事業報告書」提出

04/03 静岡市V連総会中止連絡有(年会費納入)

04/11 第1回2020年度焼津福祉文化共創研究会開催(事業計画、報告研修会協議)

※本会との協働的活動申し出る(テーマ:ご近所福祉)

04/19 第202回委員会及び第1回公開型研修会中止 「OUR LIFE129号」編集作業

04/30 会員宛に、全体会各種資料、「OUR LIFE129号」発送作業

#### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、2020年度に25年の節目を迎えました。さらに、「静岡発 福祉文化の創造」が定着していけるように努力してまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

TEL054-367-2878 Fax: 054-367-2884

#### 編集後記

2020年度は、厳しいスタートとなった。新型コロナウイルス感染が一日も早い時期に終息することを願う。この時期を決して無駄にしないで、「福祉文化の創造」を大いに呼びかけたい。会員減少の中、お互いに、問題意識をもち「住み良い地域づくり」に取り組むことの共通認識を持ち続けたい。本会は、「専門性と市民性の融合」による、地域課題改善・解決に向けた取り組みにある。平成12年1月16日、宮城まり子さんと一番ヶ瀬康子初代日本福祉文化学会会長が、掛川市のねむの木学園で、本会主催の福祉文化現場セミナーで「福祉は文化である」と、語り合ったことが今でも忘れられない。